



日本外装 NEWS

2026年
6月
vol.15

発行：日本外装株式会社 / 〒216-0031 神奈川県川崎市宮前区神木本町1-9-17 TEL 0120-773-007



私たちにしかできないことを目指して



雨漏りの多い季節がやってきました

ジメジメする季節がやってきましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。さて、6月3日、台風6号が本州を直撃しました。6月はじめという梅雨入り前の早い時期に台風が本州を直撃したのは、2012年以来、14年ぶりだったそうです。川崎市でもレベル4大雨危険警報が発表され、特に川崎駅周辺は広範囲にわたる道路の冠水に見舞われ、交通にも大きな影響が出ました。また、川崎市では6時間で125ミリの雨量が記録され、これは川崎市の観測史上1位だったとのこと。人的被害につながらなかったことが不幸中の幸いです。台風直撃当日、日本外装へは発生した雨漏りでお困りの多くの方からご相談が寄せられ、出勤しているスタッフは現地調査訪問のため大忙しでした。梅雨入りを迎え、雨漏りのご相談の件数はますます増えてくるかと思えます。現地調査・工事の日程についてはお待たせしてしまうケースもあるかもしれませんが、順次対応してまいりますので、ご容赦いただけますと幸いです。また、オーナー様ご自身にできる雨漏り対策の一環として、排水ドレンの詰まりチェックなどしていただくのもよろしいかと思えます。



雨漏り診断中の様子。散水器具をセットして水を流し観察し続ける、根気の要る作業となります。

現場風景

最近の現場のようす、作業の内容をお伝えします

江東区 オフィスビル

江東区・清澄白河のRC造オフィスビルが今回の現場です。4階オフィスのベランダ掃き出し窓のサッシまわりから室内床へ雨漏りが発生しており、その雨漏りを止めるためにサッシまわりの劣化したシーリングを打ち替えます。サッシまわりの既存のシーリング材をきれいに撤去し、プライマー塗布後、新たにシーリング材を充填(写真①・②)、ヘラで均します。また、サッシとサッシ皿板の取合いや、部材間の隙間などにもシーリング処理を施しました(写真③)。今回、「変成シリコン系シーリング材」と「シリコン系シーリング材」の2種類の材料を使用しました。呼び方は似ている材料ですが、性質・用途は大きく異なる材料です。サッシまわりの施工に使用したのは変成シリコン系です。変成シリコン系は紫外線に強く、上から塗装をすることもできる、外装工事において幅広く使用されるシーリング材で、今回のようにサッシと外壁の取合いへのシーリング処理の場面で選択されます。サッシ皿板へのシーリング処理にはシリコン系を使用しました。塗装できないという難点がありますが、耐候性・耐久性に優れており、サッシや屋根板金まわりに好んで使用されます。止水確認検査で雨漏りが止まっていることを確認し(写真④)、施工完了です。



①



②



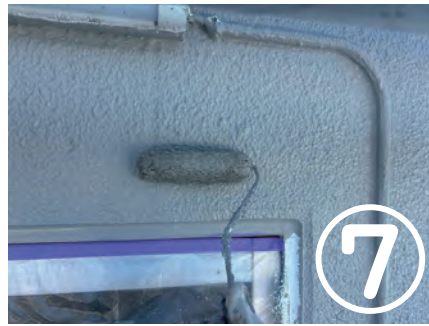
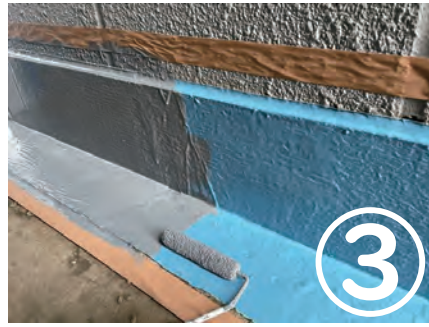
③



④

清瀬市 工場

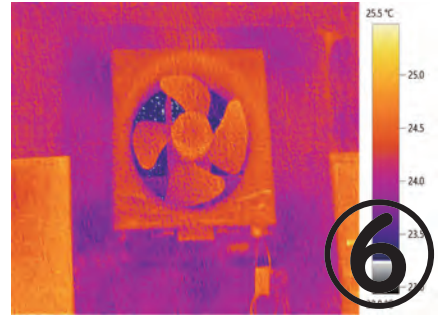
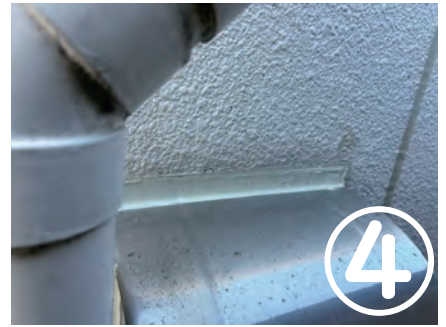
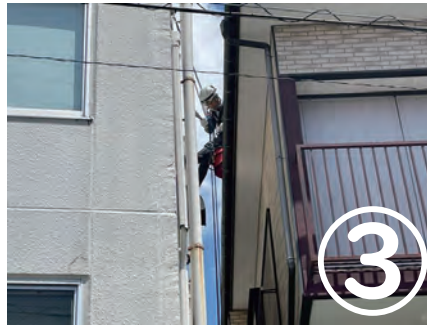
清瀬市のとある工場。事前の雨漏り診断で、1Fの鉄骨裏側の基礎と、5Fの外壁から雨漏りしていることが分かっています。1Fは基礎部分(特に原因箇所の鉄骨裏)の防水処理を行い、5Fは雨水浸入位置のシーリング処理と外壁塗装を行う施工計画となりました。まずは1Fですが、ポリウレタン系シーリング材で下地処理後(写真①)、防水材専用のプライマーを塗布します。次はウレタン防水材の塗布ですが、鉄骨の裏は雨水浸入位置なので、防水材専用ボトルを用いて、裏側にしっかりと防水材が行きわたるよう、充填します(写真②)。ウレタン防水材を2層流したら、トップコートを塗布します(写真③)。トップコートそのものには防水の機能はありませんが、ウレタン防水材塗膜を最大の敵である紫外線から守り、防水層を長持ちさせる大切な工程です。トップコート塗布の後は、鉄骨両側に金物を取り付けることで、鉄骨裏側に雨水がまわるのを防ぐ施工を行いました(写真④)。ウレタン防水に加えて金物で処理をしたことにより、より雨漏りリスクを回避できました。次は5Fの工事の様子です。施工箇所は5F外壁です。4Fのルーフバルコニーに面しているため、バルコニー上での作業となりました。まずは雨水浸入位置のシーリング処理です(写真⑤)。今回のように外壁塗装や防水材の塗布を前提とした施工計画の場合、塗装・防水施工前のシーリング処理の材料として、ポリウレタン



系シーリング材が選択されます。施工面に密着し、硬化するとゴムのように弾性を発揮するウレタンは、止水の観点からはかなり有能な素材ですが、反面、紫外線に弱いというデメリットがあります。したがって、紫外線を避けるために塗膜をかぶせることが必要不可欠となります。今回は「雨漏り補修」と「塗装も工程に含まれている」の2条件を兼ね備えているため、ポリウレタン系シーリング材がまさに適材となります。雨水浸入位置だけでなく、他の貫通部やサッシまわりへ対しても、しっかりとシーリング処理を施します。シーリング処理が終わったら、塗装養生を行います。施工箇所を丁寧にムラなく塗ることは言うまでもなく重要ですが、施工箇所以外の場所を飛沫で汚さないようにすることもまた、同様に重要です。時間をかけて念入りに塗装養生を施します。養生が出来次第、速やかに塗装工程に入ります。下塗りは下塗り用水性カチオン系シーラーを塗布しました。シーラーは塗料の密着性を高めたり、塗料が下地へ染み込んでしまうのを防いだりする、塗装には欠かせない下塗り材料です。中塗りはこのコーナではお馴染みの外断熱塗料・ドリームコートを砂骨ローラーを使ってパターンをつけて3層塗り重ねます(写真⑥)。砂骨ローラーでパターンをつけることで、膜厚を十分に取ることができ、より堅牢な仕上がりとなります。中塗りが終わればよいよ上塗りです。アクリルシリコン塗料を2層塗り重ねます(写真⑦)。ムラや塗り残しができないよう、塗装面を注意深く目視し、チェックしながら丁寧に塗ります。養生を撤去し、止水確認検査で雨漏りが止まっていることを確認、施工完了となりました(写真⑧)。

宮前区 社屋

弊社のある宮前区でご依頼があり、まずは雨漏り診断に向かいました。現場は3階建ての社屋、2F東側外壁の換気扇まわりから雨漏りが発生している状況です。東側の外壁に散水装置をセットして、雨漏り診断を行います。換気扇の壁側の換気フードに散水を行なったところ(写真①)、換気扇まわりに漏水が再現されたため、東側2F外壁の換気フードまわりを雨水浸入位置と特定しました。原因が判明したので、補修作業に移行します。①の写真に見られるとおり、建物と建物の間の狭小部につき、ブランコで屋上から降り、補修箇所にあksesします(写真②)。雨水浸入位置は換気フードですが、ブランコで降りながら劣化の著しい箇所、今後雨漏りのリスクとなり得る箇所へはシーリング処理を施します(写真③)。換気フードまわりの既存シーリング材が劣化していることを確認、シーリング処理を施しました(写真④)。ブランコによるシーリング処理が終われば、雨漏り診断と同様に散水を行い、止水確認をします。雨漏り診断・止水確認検査の際は目視のみならず、サーモグラフィを用いて、温度変化の観点からも雨漏り箇所を観察します。写真⑤が雨漏り診断時のサーモ、写真⑥が止水確認検査時のサーモです。無事、止水に成功したことが確認できました。



お役立ち百科

暑さの厳しい夏本番を迎える前に！

暑熱順化で暑さ対策をしよう

暑熱順化とは？

梅雨が明けるといよいよ本格的に夏本番を迎えます。夏は現場作業をする私たちは言うまでもありませんが、暑さの中で生活を送る皆さんももちろん、熱中症には十分注意しなくてはならないと思います。「暑熱順化」とは、身体を暑さに慣れさせることを意味します。暑い時に体内の熱を放散する効率は、汗をかく機能を高めることで向上させることができます。暑熱順化ができていないと、体内の熱を外へ逃がすことができず、熱中症のリスクが高まります。

暑熱順化の実践方法の一例



ウォーキング

- ・ややきつと感じる程度の強度(汗をかく程度)で行う
- ・1日30分、週5程度で行う
- ・日中の最も暑い時間帯(12時～15時頃)は避け、涼しい早朝や夜間に行う
- ・安全のため、こまめに水分と適度な塩分を摂取



入浴で汗をかく

- ・運動が苦手な人、運動する時間が取れない人にオススメ
- ・40℃程度のぬるめのお湯に10～15分ほど浸かり、じんわりと汗をかく
- ・体調が悪い時は行わないこと

ATTENTION!!

夏の現場作業には今やマストアイテムとなった空調服。近年は現場だけでなく、街中でも普段着として活用している人も見かけることが多くなりました。真夏は熱中症対策として有効ですが、一方で、着用中の体感温度が下がるため、暑熱順化が妨げられるリスクもあります。夏前の着用には注意が必要です。



便利だが思わぬリスクも

お詫び



連日、インターネットやメディアで報じられているとおり、中東情勢の悪化に伴うホルムズ海峡封鎖の影響で、石油・ナフサ由来材料の手配に大きな遅れが生じております。特にシンナー類や、水性油性問わず、塗料全般の供給遅延は深刻です。

すでにご成約いただき、現在工期に遅れが出ているお客さまには大変ご迷惑をおかけしております。また、これから着工する工事に関しても、材料の手配の状況によっては着工時期を遅らせていただく場合がございます。日本外装では、供給難の状況の中にあっても、決して工事品質を落とすことなく、「いい仕事をしよう」を遵守してまいりますので、どうかご理解を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

遅れの生じている材料

- ・シンナー類
- ・各種シーリング材
- ・プライマー
- ・防水材
- ・塩ビ防水シート
- ・塗料全般
- ・養生テープ類 etc



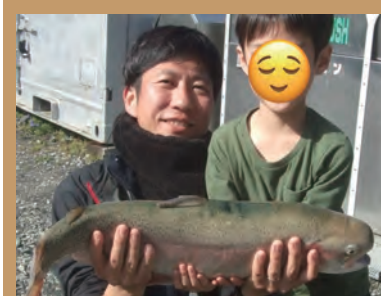
深刻な供給遅延で、やむを得ず工期を延長させていただく場合もございます。

編集後記

去る4月、長男と2人でトラウト釣りへ行ってまいりました。わたくしはトラウト釣りが大好きでして、子供が生まれる前は毎週のように釣り場へ通っておりましたが、子供が生まれてからは年に1~2回の貴重なチャンスを楽しんでおります。長男との釣りはかれこれ4回目で、毎年長男の春休みに合わせてわたくしが有給休暇を取り、釣りへ繰り出すというのがここ数年の通例となっております。1年前の釣行ではルアーを前に飛ばすのが精一杯だった長男が、今回は別人のように集中力が向上しており、驚かされました。黙々とルアーをキャストし、反応がなくなると「そろそろルアーを変えたい」と自ら申し出、天候が変われば「お日さまが出てきたから、日光を反射するような色のルアーがいいんじゃない?」と自分なりの状況分析で真剣に釣りに向き合っていました。そんな長男はわたくしよりも多くの魚をヒットさせ、逃がしはしたものの大物をかけるエキサイティングな場面もありました。右下の写真はわたくしが運良く釣り上げた特大トラウトなのですが、長男が網入れをアシストしてくれてなんとか無事ゲット! 魚がネットに入った瞬間は、2人とも「やったー!!」と思わず大声を出してしまいました。いつの日か子供と一緒に釣りに行きたい、そして釣れた釣れなかったと一緒に喜んだり悔しがったりしたい、というのがわたくしの夢のひとつだったのですが、今回それが叶い、嬉しさのあまり魂がふるえてしまいました。釣りあげた魚たちは釣果として持ち帰り、塩焼きやあぶり、ムニエルにして家族皆で美味しく頂きました。わたくしも久しぶりに釣りを全力で楽しみ、大いにリフレッシュできました。また長男と釣りに行けるのを楽しみに、日々仕事と子育てに一生懸命邁進しようと改めて心に誓った有給休暇でした。次男がもう少し大きくなり、いつか家族全員で行けたら…と、密かに企んでいます。



編集者プロフィール
大沼和正 入社5年目 主に現場管理とニュースレターの刊行を担当



トラウトとは言っても、50cmオーバーはかなりの迫力があります。長男も思わぬ大物に大興奮でした。

日本外装株式会社

外装リフォームのプロフェッショナル集団

神奈川県川崎市宮前区神木本町 1-9-17
9:00 ~ 20:00 / 土・日・祝も営業

0120-773-007

日本外装公式SNS

【X】

【Instagram】

【Youtube】



日本外装公式サイト

防水工事・塗装工事・総合改修工事・雨漏り調査&補修をご検討されている方、右のQRコードからどうぞ!



Youtubeで工事の様子がチェックできます!



日本外装では工事の様子の一部をYoutubeで紹介しております。ぜひ、チャンネル登録をお願いします!

ニュースレター第15号アンケートのお願い

皆様のご意見をお聞かせください。今後の編集に活かしてまいりますので、ご協力いただけますと幸いです。

